令和３年度第１回大会･研修委員会　会議録（概要）

日時：令和３年５月 10 日(月)　13 時 30 分～17 時
開催方法：オンライン方式

出席者：吹屋委員長、長谷川副委員長、新井委員、蓮沼委員、藤委員、加藤委員、
青木委員、三宮委員、大月委員、事務局（山﨑・吉田・山本）

１．開会
２．委員長あいさつ
３．令和３年度委員会体制について
⑴各委員より自己紹介。
⑵長谷川委員を副委員長に選出した。
４．報告事項
⑴令和２年度第２回委員会における協議内容について
・令和２年度第２回委員会議事録により確認。
５．協議事項
⑴令和２年度事業報告・決算報告
・それぞれ事務局より説明し承認された。
⑵令和３年度事業計画・予算案について
・令和３年度事業計画案と予算案について事務局より説明。
・委員会は例年通り４回開催、大会は高知での実施を予定。また、大会について協議するため、適宜オンラインによる臨時委員会を開催することが承認された。
・予算案については、オンラインのみによる大会開催となったことを受け、事業費を組み替えた予算案を事務局が示し了承された。ただし、委託費については十分に精査・検討すべきとの指摘があった。

⑶第 47 回全史料協全国大会（高知大会）について
・令和３年度の全国大会については、２月の委員会で、対面とオンラインを併用して実施し、両用の準備を進めることとしていた。しかし、この間、感染状況が大きく変化（悪化）したことと、予算編成上の課題から、この点について再考すべきではないかとする提案を事務局が行い、オンラインのみによる大会実施の是非について協議した。
・協議にあたっては、まず、副委員長・高知部会・事務局の三者協議を経て取りまとめた、オンラインのみによる大会実施プランを一括説明し、協議した。

①　オンラインによる大会実施案（事務局説明）
・今年度の大会は、どのような形を採っても実施したい。昨年度のような中止はしない。
・新型コロナウイルスの感染状況の先行きが見通せない中で、全国から多人数が参集することのリスクを回避したい。そのため、オンラインのみで実施したい。人の健康と命に関わる問題として考えたい。
・大会では、委員、事務局は現地入りを基本としたい。ただし、居住地の感染状況や、自治体の移動制限等を各自で十分検討することが必要。いずれも現地入りできない場合もあり得る。

・施設見学は館紹介の動画配信に代える。
・従来、同一時間帯で２本の研修を行ってきたが、これを１本に削減する（単線化）。
・時間的に余裕を持ったスケジュールとするため、２日目の調査・研修委員会の活動報告は見送る。挨拶関係はビデオメッセージを視野に入れる。
・大会会場として予定していた高知市文化プラザの使用は取りやめ、高知県立公文書館を主会場とする。
・大会の日程・構成については、「アーカイブズ入門」を取り入れた従来型の日程案と、開催地の高知から提案された内容を尊重する日程案の２案を提示。
・高知大会における大会テーマの方向性について
高知県では、目の前や身近にありながら、今まで顧みられなかった資料へ眼差しを向け、それをどう残していくかの一点でネットワークが形成されている。
→高知県内の様々なアーカイブズの有り様と地域社会における活発な史料保存機関や様々な分野を越えた連携・ネットワーク活動を紹介。地域における資料保存、活用、活動の新たな可能性を、高知から発信してもらう。
→キーワードは、「新しい資料」、「連携とネットワーク」。

② オンラインのみによる大会実施の是非についての意見
・協議の結果、人の健康と命に関わる問題として、オンラインのみによる大会実施はやむを得ないとの結論に至った。あわせて、以下のような議論があった。
（ｉ）2月の委員会では「高知県内の人だけでも集まれば」という意見があった。また、大会の実施方法については7月の委員会で決めるということだったが。
→高知県内の人のみ集まる場合、高知県に大変大きな負担をかけてしまうことになる。また、今のこのタイミングで方向性を決めておかないと、内容など全てに影響が出る。
（ⅱ）ネット環境の調査をした方が良いのではないか。機関会員でも環境が整っていないところもある。当日参加できない人のために、後日の録画配信も考えてみては？
→検討課題とする。
（ⅲ）オンラインならでは、できることもあるのだろう。オンライン開催でハードルが高くなる人もいるが、逆に低くなる人もいる。
（ⅳ）オンライン開催になったとしても、いかに高知県を知っていただくか、高知でやる意義が伝わるような大会にしないといけない。

③ 大会の日程・構成案についての協議
・オンラインによる大会開催という条件の中で、今大会をどのような大会にしていくか、また、大会日程をどうするかなどの点を協議した。
・日程について、従来型の一般的な日程案と、高知からの提案を尊重するスタイルの２つの日程案が示され、これを協議。その結果、後者を押す意見が強く、今大会では、開催地である高知らしさを前面に出した企画とすることとなった。それに沿って日程を再構成することとした。協議では以下のよう意見があった。
（ｉ）個別事例であっても、具体的な内容の方が興味を持って参加できる。学びが大きい。
（ⅱ）高知でないと聞けない内容に。土佐和紙についてもオンラインではどうか。オンラインを逆手にとって、オンラインだからこそできることもあるのではないか。
（ⅲ）現地開催の場合、観光パンフレットの配布やポスターセッションもある。今回はポスターセッションもできないだろう。それに代わる物をどう組み込んでいくかも重要。

（ⅳ）ミュージアムネットワークはあくまでも「ミュージアム」のネットワークなので、「アーカイブズ」からのアプローチの面を打ち出すことが必要。
（ⅴ）「目の前にある資料をどうするか」の一点で、個人、市町村、団体、文書館が結びついている。「アーカイブズ」という言葉が高知ではまだ浸透していない中、「アーカイブズ」という言葉を使わないで資料保存に取り組んでいる。
（ⅵ）博物館からのアプローチとアーカイブズからのアプローチの違いとは何か?
（ⅶ）コロナ関係の資料をどう残していくか。これについては、共通の土台で語れる。仕込みで入れても良いのでは。
（ⅷ）後発の館である高知県立公文書館にとって、このネットワークがあって良かった点があったか。 →この点については、2 日目のプログラムの中で表したいと思っている。公文書館はミュージアムネットワークの力を借りて業務を行っている。高知部会自体、ネットワークを使っている。
（ⅸ）全国でも博物館がアーカイブズに先行するケースが多く、高知県の話は持ち帰って参考にすることができるだろう。普遍化できる内容である。

④ 大会テーマに関する協議
・キーワードとして考えられるのは、「新しい資料」、「連携とネットワーク」など。
・大会テーマについて、各委員より意見聴取。
・「つながる」と同時に「役割分担」も大事では。受け持ち（守備範囲）をはっきりさせ、住み分けることで、つながることの意義がさらに増す。
・「アーカイブズ」という言葉を使うかどうかも論点。「ミュージアムネットワーク」という言葉に対して、「アーカイブズ」という言葉を入れると逆に分かりやすくなるかもしれない。
・「新しい資料」＝目の前にありながら今まで顧みられなかった資料ををどう守るか、この点をどう形にして表すか。役割分担ではなく、目の前の資料を、 思いのあるみんなで、足りないところを補いながらやっているという高知の現状がある。

⇒今日の議論をふまえて、それぞれに考え、7 月にテーマを決めることとする。
なお、1 日目の内容についてはできるだけ早く固める。

⑤ 受付方法等について
・事務局よりオンライン大会に対応した受付方法等の案の説明。
・オンライン大会に伴い、大会冊子は会場での手渡しではなく全て郵送することとなったが、従来通り開催地の業者を通じて作成、また高知県からの発送とすることとした。

⑥ 7 月の委員会は可能なら現地開催とし、その際、高知部会にも参加していただくこととした。

以上